

## 第1学年 技術・家庭科学習指導案

平成27年10月 1日（木）第5校時  
活動場所 被服室

- 1 題材名 「安全な住まい」～災害への備えを考えよう～  
家庭分野C 衣生活・住生活と自立(2)イ

### 2 題材について

#### (1) 生徒観

東日本大震災の発生から4年の歳月が流れ、復興途上でありながらも、危機感や自然災害に対して備えようとする意識は薄れ、忘れがちとなっている。発生当時小学2年生であった生徒は今年中学生となった。生徒に『3月11日（東日本大震災）のできごとを今でも覚えていますか？』と質問したところ、「はい」と答えたものは94%おり、「校庭に出たら泣いている人がたくさんいた。」「私の両親は仕事なので、迎えにくるのがおそく、とても心配だったことが印象に残っています。」など、ほとんどの生徒が自らの体験を鮮明に記憶していることがわかった。しかし、『震災後、地震などの自然災害に備えて、あなたが気をつけていることはありますか？』という問いに対しては、「はい」と答えたものが61%で、大震災の経験から学び、安全な暮らしを自ら築こうとする姿勢は十分でないのが現状である。

また、『わが家の防災チェック！』と題し、日頃の防災対策を振り返る質問に家族と一緒に答える課題に取り組みせたが、（質問項目と回答は別資料参照）17問全ての質問に対して防災対策がクリアとなる回答が90%を超えるものはなく、生徒のみならず、保護者（家族）の防災意識や備えも見直しが必要な状態であることがわかった。地震に限らず、近年発生している火山の噴火、台風による強風や竜巻など、自然災害は予測が困難で、突然自分の身に降りかかるかもしれないという恐怖心や不安感を抱く一方、確たる根拠なく自分だけはひどい目に遭わないのではと、油断しがちであることも否めないようである。

そのような中、2013年9月に発生した竜巻が近隣の越谷市に被害をもたらしたことや、先月10日には大雨により吉川市内にも避難勧告が出され臨時休校となったことで、生徒自身やその家族が自然災害の脅威を身近に感じ、警戒する事態に迫られた。「忘れたころにくる」といわれる天災から我が身を守り、家族とともに災害への備えを見直すことは、生徒の現状から重要であると考えられる。

#### (2) 題材観

小学校家庭科において、暑さ・寒さ、通風・換気及び採光に重点を置いた快適な室内環境の整え方について学習し、そのことを踏まえて、中学校では、安全に重点を置いた室内環境の整え方について学習する。現行の学習指導要領全面実施を目前に控えた時期に起きた大震災からの課題を受け、本題材のねらいをどのように定め、生きる力をいかに育むか、その役割は極めて重要である。次時には、小学校家庭科での「快適な室内環境の整え方」を踏まえ「快適な住まい」について学習する。小学校から中学校への学びがなめらか且つ、確かな積み上げとなるよう、安全が保障された上で成り立つ住まいの快適さに気づかせ、本題材を学習する意義を持たせる。日常当たり前のように整えられた、安全で快適な暮らしが、自然災害により瞬時に

奪われることを想定させ、いかなる有事にも被害を最小限に食い止めるための備えや工夫を考えさせ、さらに、自助・共助の姿勢を培うことで地域とのかかわりの大切さに気付かせたい。

また、「自然災害への備え」は、保健体育科の保健分野、理科、社会科、総合的な学習の時間等の各教科・領域においても学習するが、本題材では家族の安全に視点を当てて扱う。本題材は、生徒が授業で学んだことを家庭に持ち帰り、家族で話題にし、そのことから各家庭の災害対策の実効性を高める効果も期待できる。生徒一人一人の学びが家族・家庭、そして地域へとつながり、そこで生活することが、実践的な学習の場を得ることにもなる。さらに「防災は十人十色」といわれ、地域環境や家庭環境によってその備えはさまざまであることを生かし、家族で話し合った「我が家の防災対策」を発表し合う場を設ける。課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れることもねらいとし、本題材を設定した。

### (3) 指導観

生徒はC(1)アの学習として、「安心ポケット付き防災ずきん」を製作した。防災加工を施した表布と合わせて縫う裏地に開口部を大きくとった内ポケットを設けたものであり、防災ずきんを着用した際に、内ポケットに非常時の持ち出し品を入れて避難できる仕組みとなっている。本時は、自分で製作した防災ずきんの安心ポケットに日頃から入れておき、いざというときに持ち出したいものを考え、発表させる。これらの活動から、自分の身は自分で守るという意識を強く持たせたい。中学校家庭分野で学習したことを後に振り返った時、ミシンで製作した作品のことや、調理実習で自ら調理し、食した献立のことは思い出せる生徒が多い。この防災ずきんの活用方法について生徒や家族の暮らしと結び付けて考えさせることで、住まいの学習も自ずと生活に息づき、よりよい衣生活・住生活を営むための仕掛けとなるよう指導したい。

また生徒は、持ち出し品を始めとし、事前に家族とともに回答した『わが家の防災チェック！』の結果をもとに、それぞれの家庭ごとに見直しを図り、親子で記入したアンケート用紙を持っている。それらを授業の中で意見交換の素材として活かし、保護者に任せがちな住まいの安全について、家族、そして地域の一員として防災対策に参画していこうとする姿勢を養いたい。プライバシーには十分配慮するが、多様な家族の構成や生活スタイルがあるからこそ、防災対策もそれぞれで、その違いを認め合いながら、互いに知恵を授け合う授業の雰囲気醸成し、安心して家族や家庭のことを語れるよう言葉かけを工夫したい。

## 3 題材の目標

家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、住まい方を工夫できる。

#### 4 題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
・安全な室内環境に 関心を持ち、整え 方や住まい方の 課題に取り組も うとしている。	・室内環境について 課題を見付け、調 査・観察・実験な どを通して、安全 な整え方や住ま い方について考 え、工夫してい る。		・安全な室内環境の 整え方と住まい 方に関する具体 的な方法につい て理解している。 〔家庭内事故の防止 や自然災害への備 え〕

#### 5 指導計画及び評価計画（2時間扱い・本時2／2）

時 間	○学習目標 ・学習活動	評価の観点			
		生活や技術へ の関心・意欲・ 態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術につ いての知識・理 解
1 ②	<p>○家庭内の事故の種類 とその原因がわか る。 ・住まいの中にはど のような危険があ るか調べ、原因を 考える。</p> <p>○家族の安全を考 えた住まい方を工 夫することができる。 ・自分の意見をま とめ、発表する。</p> <p>○自然災害を想定 した住まいの様子 を知り、自分と家 族の安全対策を考 え、非常時に備え た工夫ができる。 ・原因をもとに安 全管理の仕方を考 え、話し合う。</p>	<p>・家族が安心して 住まうために室内 環境をどのように にしたらよいか、 関心をもってい る。</p> <p>・自然災害と住ま いのかわりにつ いて関心をもっ ている。</p>	<p>・家庭内の事故の 防ぎ方を知り、安 全な住まい方を 具体的に工夫し ている。</p> <p>・自分や家族の暮 らしに合った自 然災害への備え や具体的な防災 対策を工夫し ている。</p>	<p>・自然災害を含 む家庭内の事故 の防ぎ方や自然 災害への備えな どの視点から室 内環境の整え方 、安全管理の方 法がわかる。</p>	

## 6 本時の学習指導

### (1) 本時の目標

自然災害を想定した住まいの様子を知り、自分と家族の安全対策を考え、非常時に備えた工夫ができる。

### (2) 展開

学習内容	学習活動	時間	教師の働きかけ	評価と指導の工夫 【】 評価の観点 〈〉 評価方法 ○ 評価規準 ▼ 努力を要する生徒への手立て
導入	<p>1 先月10日の大雨の時の様子について想起し発表する。</p> <p>自然災害が身近なものであり、それらに備えた対策を自ら行うことの重要性を知る。</p>	10	<p>○気候変動等により、予測が困難な自然災害は決して他人事ではなく、自分自身や家族の生活や生命を脅かす恐れがあることを実感させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の写真</li> </ul> <p>○アンケートの結果から、天災による被害や恐怖心は抱いているもののそれに対する備えは十分でない実態であることを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの集計結果</li> <li>・AC（公共広告機構）のCM映像①</li> </ul>	<p>【関・意・態】 〈挙手・発表〉</p> <p>○自然災害と住まいのかかわりについて関心をもっている。</p> <p>▼災害時にまつわるデータ等を示し、関心をもたせる。</p>
学習課題の設定	<p>学習課題：住まいの安全を考え、防災対策を伝え合おう。</p>			
	<p>2 事前に家族とともに振り返った「わが家の防災対策」「防災ずきんのポケットに入れておきたいもの」をグループごとに伝え合う。</p>	20	<p>○家族構成や住まいの構造などにより、防災対策は各家庭によりさまざま、だからこそ多様な知識や工夫を学ぶ機会であることを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋紙</li> </ul> <p>○わが家と同じ防災対策には水色、新たに知った（参考となる）ものにはピンク色の付箋紙に記名し、互いのワークシートに貼らせる。参考となったものは自分のワークシートにも記入させる。</p> <p>○なぜその防災対策を施しているのか、できるだけ理由も明確にして発表させる。</p>	

発表	3 話合いから確認できたことや、新たに知ったことを発表する。	5	○発表の形式や流れをきちんと示す。 ○付箋紙の貼られているワークシートの様子を見ながら、数名の生徒に発表させる。	
資料の活用	4 災害に備えたり、より安全に避難したりするためには正確な情報を得て、家族や地域で共有することの大切さを知る。	7	○「吉川市防災マップ」を配布し、活用の仕方を説明する。 ○最近起きた水害に対しての備えをはじめとし、自然災害への対策をこの資料から家族で学び、いざという時にあわてず落ち着いて安全に行動することの重要性を知らせる。	
本時のまとめ	5 授業で学んだことから「家族に伝えたい防災対策」をワークシートに記入する。	8	○今日授業で分かったことや新たに知ったことをこの場で終わらせることなく、帰宅後家族で話題にし、伝えていくことの大切さを知らせる。 ・AC（公共広告機構）のCM映像②	【工・創】 〈ワークシート〉 ○授業で学んだことから、自分や家族に合った、具体的な防災対策を工夫している。
次時について			○次時には小学校家庭科の学習を踏まえて、快適な住まいについて学習することを知らせる。	▼ワークシートを点検し、アドバイスを記入する。

## 別資料 1



### 家庭科アンケート 1 (安全な住まい)



家庭科の授業をよりよくするために、みなさんにアンケートに答えてもらいたいと思います。成績には一切関係ありませんので、あなたが思った通りに答えてください。

#### 生徒が自分で答える質問

あなたが小学校 2 年生の 3 月 1 1 日に起きた『東日本大震災』やその後の様子について答えてください。

#### 生徒編

- ① 3 月 1 1 日のできごとを今でも覚えていますか？
  
- ② ①で「はい」と答えた人に質問です。東日本大震災のとき、あなたが経験したことで、もっとも印象に残っていることは何ですか？
  
- ③ 震災後、地震などの自然災害に備えて、あなたが気をつけていることはありますか？
  
- ④ ③で「はい」と答えた人に質問です。あなたが気をつけていることを教えてください。

## 家庭科アンケート 2 (安全な住まい)

家庭科の授業をよりよくするために、アンケートに御協力ください。

1年 ( ) 番 氏名

わが家の防災チェック！ (生徒が家族と答える質問)

あなたの家ではどのような防災対策をしていますか？家族の人と一緒に次の質問に答えてください。

(家族は全員そろってなくてもよいです。自分以外のどなたか一人でも構いません。)

はい いいえ

①	家族で防災のことについてよく話し合っている。		
②	家族の間で非常時の連絡先や連絡方法がわかる。		
③	震災時(地震の時)の避難場所と避難経路を家族全員が知っている。		
④	家族全員の血液型や健康状況などを把握している。		
⑤	地域の防災活動には積極的に参加する。		
⑥	非常用持ち出し袋が用意してある。		
⑦	非常用持ち出し袋の中身がきちんとそろっている。		
⑧	備蓄用食料や避難生活用品の準備ができています。		
⑨	家具の転倒防止処置を万全にしている。		
⑩	ガラスの飛散防止処置をしている。		
⑪	玄関や階段、ろうかなどはすっきり片付いている。		
⑫	照明器具は落下防止処置を施している。		
⑬	寝室にはものを置かないようにしている。		
⑭	家族全員が消火器の使い方をわかっている。		
⑮	台所など火元がある場所が整理・整とんされている。		
⑯	小さな地震でも火を消す習慣がある。		
⑰	避難するときはガスの元栓を閉め電気のブレーカーを切ることを知っている。		